

《京都》御所と離宮の栞(しおり)



其の九

— 京都御所 —

こうごうぐうつねごてん おこごしき
応挙が画いた皇后宮常御殿 御小座敷上の間小襖 「水に鮎」 「虹」



現在の京都御所は、寛政度内裏(1790年竣工、皇后の御殿はその後増築)の建物が嘉永7年(1854)の火災により焼失したため、安政2年(1855)に再建された建物が残っています。安政度に再建された皇后宮常御殿御小座敷上の間障壁画には、狩野永岳により「みほのうらはるのふじ三保の浦春の富士」(全16面)が画かれていますが、床の間脇違い棚の天袋と地袋は寛政度に、円山応挙が画いた小襖が残っています。天袋の「虹」は中央2面に渡り虹が画かれ、地袋の「水に鮎」は、鮎が川で泳いでいる様子が画かれています。

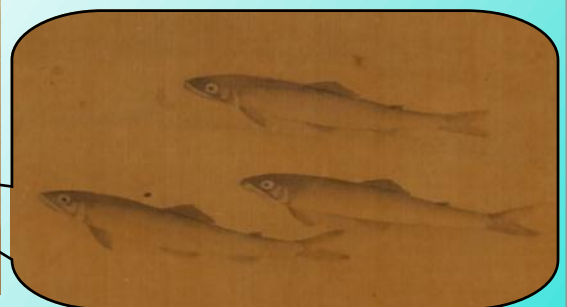
中国の写生画や西洋の遠近法を研究し、独自の画風を創出した応挙は、享保18年(1733)丹波国桑田郡(現在の京都府亀岡市)の農家丸山藤左衛門の次男として生まれ、石田幽汀に絵を学びました。江戸時代中期から後期にかけて活躍し、宝鏡寺(百々御所)など皇室にゆかりのある所へも出入りしました。

応挙は、寛政度御造営の際には御常御殿の一の間と御小座敷上の間も画いていますが、それらの障壁画は嘉永7年の火災により焼失してしまいます。しかし、この小襖は被害を免れました。現在は模写のものに入れ替え、現品は収蔵庫に保存されています。



収蔵庫に保存している応挙作成の「水に鮎」

因みに京都御所には、嘉永の火災で被害を免れた寛政内裏造営に制作された障壁画は、23作品(99面)残されています。



《京都》御所と離宮の栞



— 京都御所 —

こうごうぐうつねごてん

皇后宮常御殿 御化粧の間 襖絵「新樹」

しんじゅ



京都御所内の北側には、皇后宮常御殿があります。皇后宮常御殿は、皇后がお住まいになる建物ですが、中宮御殿とも呼ばれ、また女御御殿、准后御殿である時代もありました。現在の位置に建てられるようになったのは宝永度内裏（宝永6～天明8年〈1709～1788〉）からといわれており、天皇の御常御殿と比較すると、約2/3の面積となっています。



皇后宮常御殿



皇后宮常御殿・御化粧の間

この建物には、天皇が御使用になる御常御殿と異なり、「御化粧の間」があります。「御化粧の間」は皇后の私的な部屋として使用されました。ここでは、この部屋に画かれている障壁画を紹介します。

御化粧の間は9畳の部屋で、その四方の襖や壁合わせて13面にかけて、塩川文麟が「新樹」と題し風景画を画いています。金泥を配した画面に、山の合間を流れる清流、カナメモチなどの常緑樹や桜などの落葉樹合わせて10種類以上の樹木や石が配置され、春から夏へと移りゆく様子が、群青、緑青などの顔料を用いて色鮮やかに画かれています。

文麟は、江戸時代末期から明治初期にかけて活躍した四条派の絵師で、山水図、人物図や花鳥図など、あらゆる画域をこなしました。京都の各派の画家を集めた如雲社では指導者として活躍し、明治京都画壇の基礎を築きました。

安政度御造営(安政2年〈1855〉)の折には、御常御殿の御小座敷下の間や、安政5年に建造された迎春の北の間

の襖絵(栞其の六で紹介)も担当しています。



皇后宮常御殿・御化粧の間「新樹」画:塩川文麟

「寿老人」は中国において長寿を授ける道教の神仙とされています。日本においても長寿の神とされ、七福神にも数えられています(地域により七福神に数えられない場合もあり)。寿老人は南極老人(南極星の化身)ともいわれ、同じく南極老人といわれた福祿寿と合体神とされることがあります。



おみま にしごえんざしき とくげん
御三間 西御縁座敷に画かれている福井徳元筆「寿老人」

「寿老人」は古くから画かれていた画題のひとつで、長頭の老人が、巻物が付いている杖と団扇を持ち、鹿を連れているのが特徴です。

ここでは「寿老人」と題された作品3件を紹介します。

1件目は福井徳元が御三間の西御縁座敷に画いた杉戸絵です。長頭の老人が巻物と団扇の付いた杖を持ち、鹿を連れている様子が画かれています。(写真:左)

2件目は山本探齋が皇后宮常御殿の北御縁座敷に画いた杉戸絵です。こちらは鹿ではなく鶴が画かれており、寿老人は如意を所持しています。(写真:下段左)

如意は竹や木、角などで作られ、孫の手のように使われたものが後には威儀を正すために用いられたとされています。(詳細写真:下段右)



こうごうぐうつねごてん きたごえんざしき たんさい
皇后宮常御殿 北御縁座敷に画かれている 山本探齋筆「寿老人」





杉戸の右面に画かれている人物が持っている杖には^{れいし}靈芝(万年茸というキノコを干した物)が付いています。

(詳細写真: 上段右側)

靈芝は、不老長寿に効くとされ長寿を表す物として寿老人図にも画かれます。

3件目は、「竹に亀」「^{ぶく}寿老人」「^{かのうとうはく なかのぶ}松に鶴」の3幅一組となっている、狩野洞白(愛信・1772~1821)が絹地に画いた掛軸です。鹿は引き連れてはいませんが、巻物と団扇のついた杖を持つ長頭の老人が画かれています(写真: 下段中央)。本紙(絵が画かれている部分)は、高さが137.8cm、幅が61.1cm(総寸法 高さ:260cm 幅:79.4cm)ある大きなものです。

この絵を画いた洞白は駿河台狩野家の5代目として活躍した絵師で、駿河台狩野家は探幽の養子洞雲(益信)から始まる家系です。



^{かのうとうはく なかのぶ}掛軸 「竹に亀」「寿老人」「松に鶴」作者狩野洞白(愛信)

《京都》御所と離宮の葉（しおり）




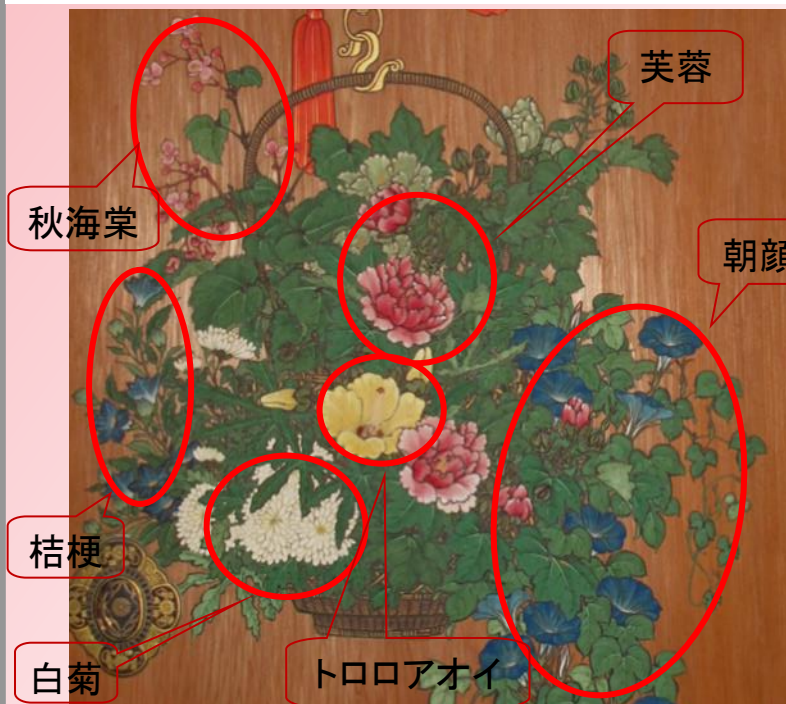
— 京都御所・桂離宮 —

花籠を画いた杉戸絵



こうごうぐうつねごてんきたごえんざしき
京都御所 皇后宮常御殿北御縁座敷杉戸絵「花籠」

画：山本探齋 



芙蓉

秋海棠

朝顔

桔梗

白菊

トロロアオイ

ここで紹介する杉戸の一部を「京都御所
宮廷文化の紹介」<平成30年春>にて
展示します

日時：平成30年4月4日(水)～8日(日)

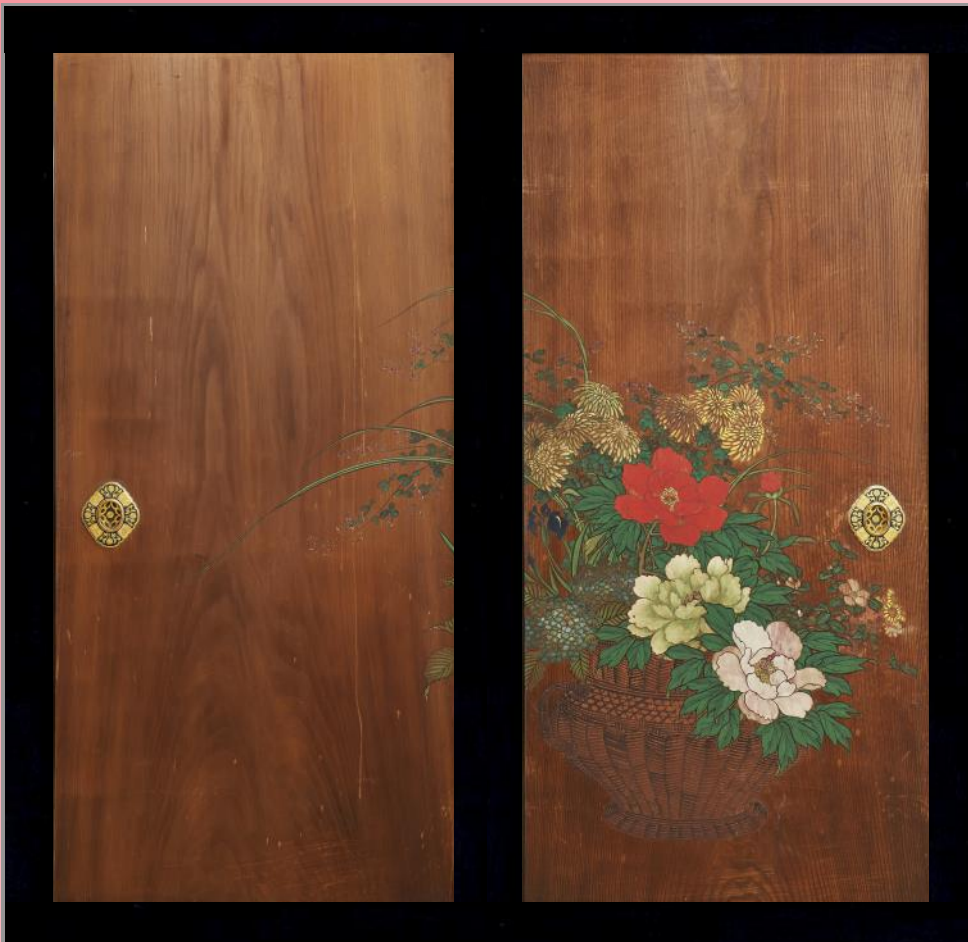
場所：管理事務棟

杉戸絵は、木の板で作られた戸に、様々な題材の絵を直接画いたものです。京都の御所・離宮では、花鳥画、風景画や、古典芸能、風俗、中国の故事などを題材としたものが画かれ、縁回りや廊下などに用いられて、通路となる空間に華やかさを添えています。今号では花籠と雅楽を主題とした杉戸絵を取り上げます。

花籠を題材にして画かれている杉戸は京都御所と桂離宮にあわせて3件あります。

左の写真は、こうごうぐうつねごてん 皇后宮常御殿の北御縁座敷にある杉戸です。この絵は、きたごえんざしき [葉其の十一](#)で取り上げた、たんさい 寿老人(画：山本探齋)の裏面に画かれています。

各面に1つずつ花籠が画かれていますが、右面の籠には3色の牡丹が盛られており、一方左面ではふよう 芙蓉、しゅうかいどう トロロアオイ、秋海棠、朝顔やききょう 桔梗などの花が盛られた籠が吊り下げられています。



次に、^{さんだいでん}京都御所の参内殿にある杉戸です。これは、参内殿^{ひがしごえんざしき}の東御縁座敷に詰められています。

杉戸は二面ありますが、画かれている花籠は右面に置かれたひとつで、そこから葉が左面に伸びています。大きな籠には紫陽花、菊、萩、牡丹といった広い季節にわたる花が盛られた様子が画かれています。

さんだいでんひがしごえんざしき
京都御所 参内殿 東御縁座敷杉戸絵「花籠」 画：鈴木百年



桂離宮 古書院御役席杉戸絵「花籠」
えいけい まつもと
画：伝狩野永敬（模写：案本武雄）



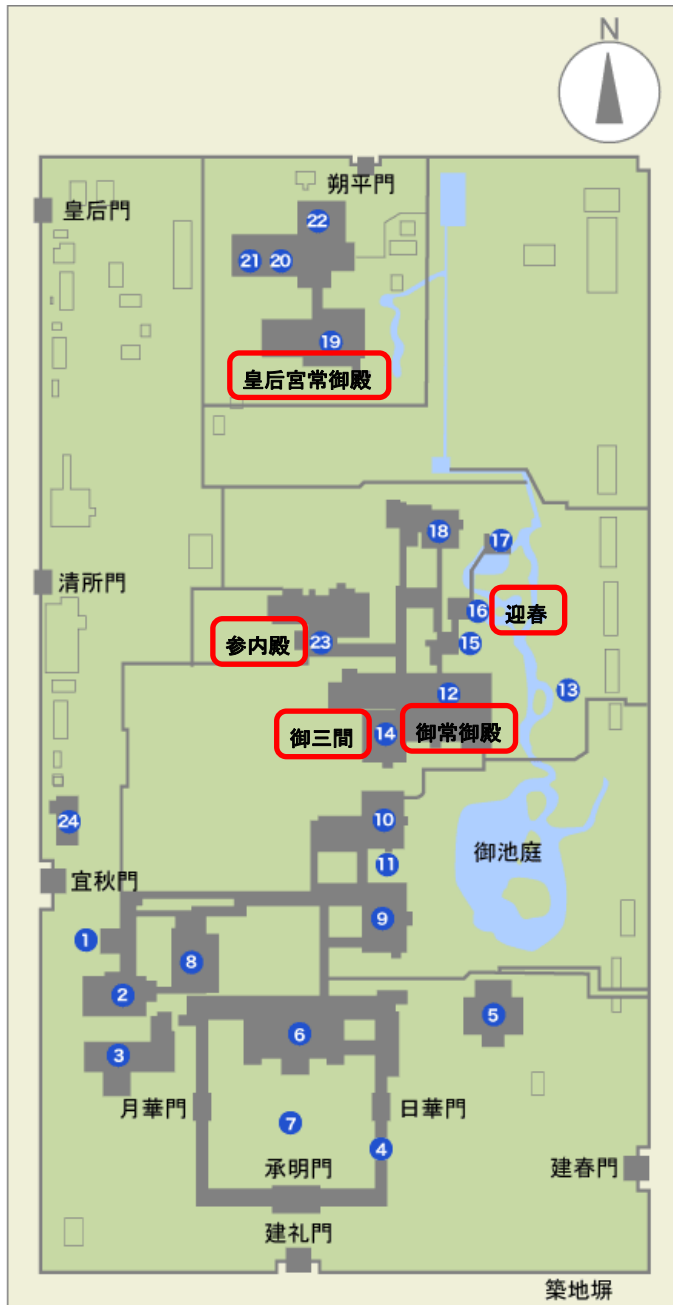
桂離宮 古書院御役席



最後に、桂離宮の古書院御役席にある杉戸です。現在、御殿には昭和46年に案本武雄により模写された杉戸が詰められており、^{えいけい}狩野永敬（京狩野派の4代目）が画いたと伝わる杉戸は、収蔵庫で保存しています（写真は模写）。

右面に、^{かいどう}茨と海棠が盛られている背の低い籠、左面に、^{おみなえし}菊、女郎花、薄や桔梗などの草花が盛られた籠が画かれています。

京都御所案内図



- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所

桂離宮案内図



- ① 御幸道
- ② 外腰掛
- ③ 蘇鉄山
- ④ 洲浜
- ⑤ 天の橋立
- ⑥ 石橋
- ⑦ 松琴亭
- ⑧ 賞花亭
- ⑨ 園林堂
- ⑩ 笑意軒
- ⑪ 月波楼
- ⑫ 古書院
- ⑬ 月見台
- ⑭ 中書院
- ⑮ 新御殿
- ⑯ 住吉の松
- ⑰ 桂垣
- ⑱ 穂垣

観マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

通マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>
 〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所
 代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215